

## 6. 那珂川町の健康課題と目標を達成するための戦略

データヘルス計画全体の目標：生活習慣病の発症および重症化予防による被保険者の健康寿命の延伸

【目標を達成するための戦略】

健康課題	データヘルス計画の目標を達成するための戦略
課題①脳血管疾患の医療費が高い →男女ともに脳血管疾患（脳内出血・脳梗塞）の標準化死亡比が高く、国保・後期ともに医療費（標準化比）が高い	・特定健診受診率・特定保健指導実施率向上のため関係機関や庁内の連携強化 ・特定健診・特定保健指導の受診勧奨の体制強化
課題②虚血性心疾患の医療費が高い →虚血性心疾患（急性心筋梗塞）の標準化死亡比が高く、国保・後期ともに医療費（標準化比）が高い	・特定健診受診率・特定保健指導実施率向上のため関係機関や庁内の連携強化 ・特定健診・特定保健指導の受診勧奨の体制強化
課題③糖尿病網膜症の医療費が高い →男女ともに糖尿病性網膜症の医療費（標準化比）が高い	・糖尿病重症化予防プログラムの活用、関係機関との連携強化
課題④血圧・血糖値が高い人が多い →特定健診の血圧・血糖の有所見者の標準化該当比が高い	・糖尿病重症化予防プログラムの活用、関係機関との連携強化
課題⑤胃がんの医療費が高い →男女ともに胃がんの医療費（標準化比）が高い	・がん検診精密検査の受診勧奨の強化
課題⑥咀嚼能力に問題がある人が多い →噛みにくいと感じる人の標準化該当比が高い	・歯周疾患検診の受診率向上のための周知体制の強化

## 7. 個別事業の実施内容と目標値

上記の戦略に基づき、事業ごとに個別の評価指標を設定し、継続的に事業の進捗・成果を評価します。

事業名称	個別保健事業の評価指標	2022年度(R4)実績	2029年度(R11)目標
特定健康診査	◎受診率	49.0%	52.5%
	◎40歳代受診率	34.6%	41.6%
	◎50歳代受診率	34.9%	41.9%
特定保健指導	◎実施率	42.3%	49.3%
	◎特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	8.9%	21.8%
生活習慣病重症化予防事業	対象者への受診勧奨実施率	-	100.0%
	対象者の医療機関受診率	-	40.0%
糖尿病性腎症重症化予防事業	◎受診勧奨対象者(未治療者)への受診勧奨実施率	100.0%	100.0%
	◎受診勧奨対象者(未治療者)の医療機関受診率	5.3%	40.3%
	◎保健指導対象者への保健指導実施率	0.0%	30.0%
	対象者への情報提供実施率	100.0%	100.0%
なかがわフィットネス倶楽部(運動教室)	延べ参加者数	171	200
	特定健診受診者の運動習慣なしの割合の減少	73.0%	61.0%
那珂よし健康ポイント事業	登録者数	75	1020
	ポイント達成者率	41.3%	30.0%
栄養相談	相談利用人数	19	39
	特定保健指導対象者数の減少	186	168
人間ドック・脳ドック	受診者数	346	410
重複服薬・重複多受診者対策事業	対象者への勧奨通知率	100.0%	100.0%
	対象者の指導実施率	0.0%	50.0%
ジェネリック医薬品差額通知事業	対象者への差額通知率	100.0%	100.0%
	ジェネリック医薬品利用率	79.9%	80.0%

◎県共通指標

【発行年月】令和6年3月  
【発行・編集】那珂川町 住民課

## 那珂川町国民健康保険 第3期データヘルス計画及び第4期特定健康診査等実施計画【概要版】

### 1. 計画の趣旨

データヘルス計画とは、医療情報や特定健康診査データなどから那珂川町国民健康保険被保険者の健康課題を分析し、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)のPDCAサイクルに沿い、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための計画です。データを分析して健康課題を捉え、課題に応じた各種保健事業を実施することで、被保険者の健康の更なる保持増進、ひいては将来的な医療費の適正化を図ります。

また、特定健康診査等実施計画とは、保健事業の中核をなす特定健康診査・特定保健指導の実施方法や目標などを定めた計画です。

令和5年度に両計画が最終年度を迎えることから、過去の取り組みの成果・課題を踏まえ、より効果的・効率的に保健事業を実施するため、「第3期データヘルス計画」と「第4期特定健康診査等実施計画」を一体的に策定します。

### 2. 計画期間

本計画の計画期間は、令和6年度から令和11年度までとします。

### 3. 実施体制・関係者連携

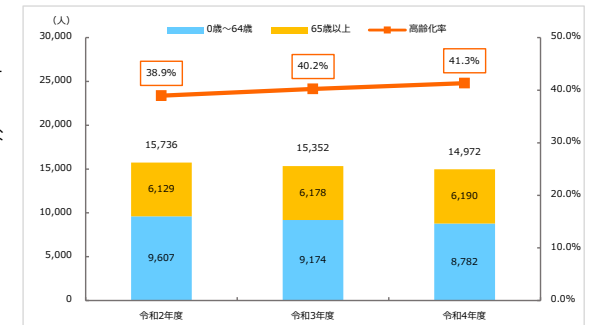
本計画の遂行に当たっては、保険部門(住民課)と保健、高齢福祉、介護部門(健康福祉課)が連携し保健師・管理栄養士等の専門職と課題や評価について共有し、一体となって保健事業の実施に当たります。

計画の策定・評価・見直しには、町の国民健康保険事業の運営に関する協議会、栃木県関係部局、栃木県国民健康保険団体連合会の保健事業支援評価委員会等との連携・協力を図ります。

### 4. 那珂川町の特性把握

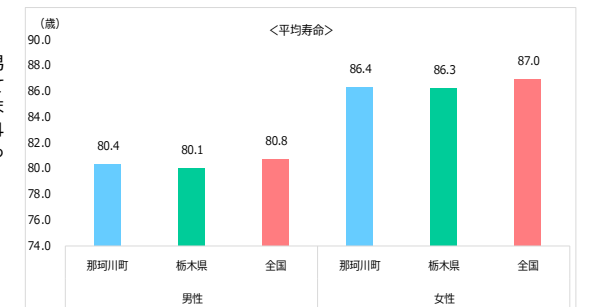
#### 【人口・高齢化率の推移】

総人口は減少傾向で推移しており、令和4年度で14,972人となっています。また、65歳以上の人口については年々増加しており、高齢化率は令和4年度で41.3%となっています。



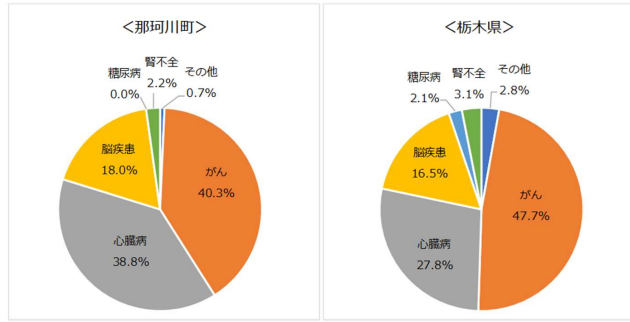
#### 【平均寿命】

令和4年度における平均寿命をみると、男性の平均寿命は80.4歳と、栃木県と比べて上回っていますが、全国より下回っています。また、女性においても、平均寿命は86.4歳となっており、栃木県と比べて若干上回っていますが、全国より下回っています。



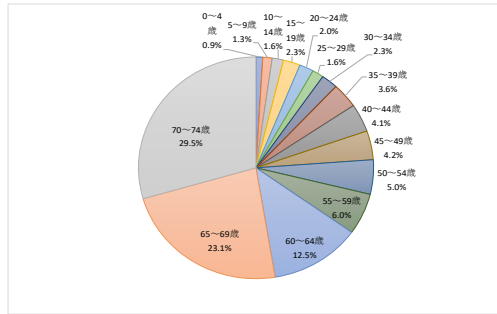
【死因別死亡割合】

死因別死亡割合をみると、がんや糖尿病、腎不全については栃木県と比べて低くなっている一方で、心臓病や脳疾患は栃木県と比べて高くなっています。



【被保険者の年齢階級別構成比】

年代別に令和5年6月時点の国民健康保険加入者の構成比をみると、60歳以上75歳未満が構成比の約65.1%となっています。

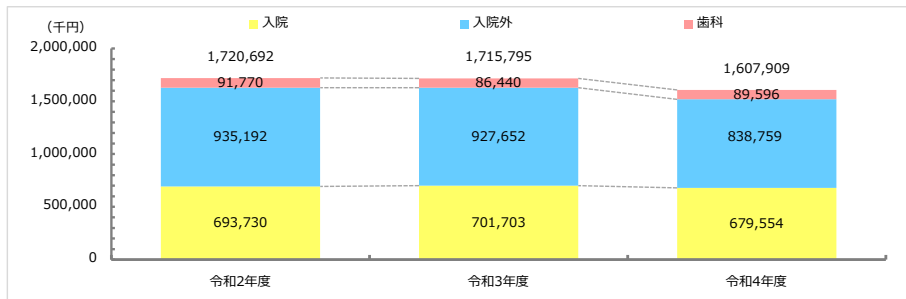


5. 健康・医療情報の分析結果

【医療費の状況】

医療費は令和2年度から令和4年度にかけて減少傾向にあり、令和4年度には、約16億8千万円となっています。入院外医療費についても同様に毎年減少傾向にあります。入院・歯科医療費については、年度ごとに増減がありますが、令和4年度は令和2年度と比べると減少しています。

<医療費の推移>



【主要疾病中分類別医療費構成比率・医療費上位10位疾病中分類（全体）】

令和4年度の疾病中分類別の主要疾患別医療費の構成比率を那珂川町、栃木県、全国平均で集計します。「高血圧症」(8.8%)、「精神」(16.9%)、「糖尿病」(14.1%)、「脳梗塞」(2.8%)、「脳出血」(2.0%)について、栃木県及び全国平均よりも構成比率が高くなっています。また、令和4年度の全体の疾病中分類別の医療費上位10疾患では「糖尿病」が最も高額となっています。

【主要疾病中分類別医療費構成比率】

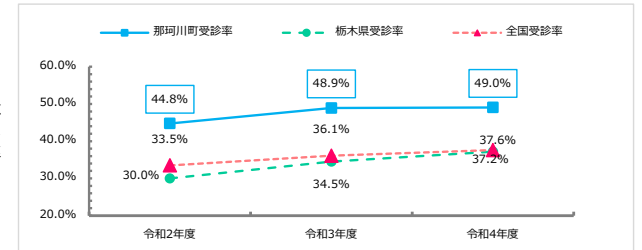
疾病中分類	那珂川町	栃木県	全国
がん	28.0%	31.3%	32.2%
狭心症	0.9%	1.7%	2.1%
筋・骨格	15.1%	15.9%	16.7%
高血圧症	8.8%	6.6%	5.9%
尿酸血症	0.1%	0.1%	0.1%
脂質異常症	4.8%	4.8%	4.1%
脂肪肝	0.2%	0.2%	0.2%
心筋梗塞	0.5%	0.7%	0.7%
精神	16.9%	14.3%	14.7%
糖尿病	14.1%	12.0%	10.4%
動脈硬化症	0.1%	0.2%	0.2%
脳梗塞	2.8%	2.4%	2.6%
脳出血	2.0%	1.0%	1.3%
慢性腎臓病（透析無）	0.4%	0.5%	0.6%
慢性腎臓病（透析有）	5.5%	8.2%	8.2%

【医療費上位10疾患中分類・全体】

順位	疾病中分類	医療費（円）	レセプト件数（件）	1件当たり医療費（円）
1	糖尿病	357,371,080	12,895	27,714
2	その他の神経系の疾患	273,538,030	3,216	85,055
3	その他の心疾患	272,301,960	3,195	85,228
4	高血圧性疾患	239,377,040	19,942	12,004
5	腎不全	234,586,840	766	306,249
6	その他の悪性新生物<腫瘍>	216,226,930	1,307	165,438
7	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	178,134,220	2,061	86,431
8	気分（感情）障害（躁うつ病を含む）	168,943,590	2,930	57,660
9	その他の消化器系の疾患	161,470,260	3,899	41,413
10	脂質異常症	116,438,100	9,812	11,867

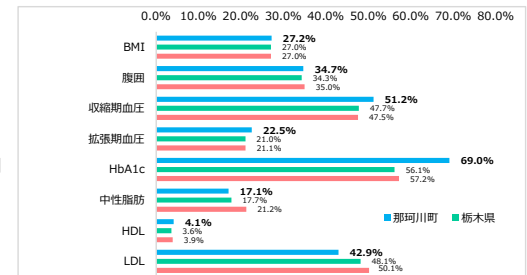
【特定健康診査受診率の推移】

特定健康診査の受診率は、令和2年度から令和4年度にかけて上昇しており、令和4年度の受診率は49.0%となっています。全国、栃木県との比較では、那珂川町の受診率は高い水準で推移しています。



【検査項目別有所見状況】

令和4年度の特定健康診査結果の各項目について、有所見者の割合を示しました。「HbA1c」(69.0%)が最も高く、次いで「収縮期血圧」(51.2%)、「LDLコレステロール」(42.9%)となっています。「収縮期血圧」、「拡張期血圧」、「HbA1c」については栃木県、全国と比較しても、有所見者割合が高くなっています。



【質問票による生活習慣の状況】

令和4年度の特定健康診査の質問票より生活習慣の状況を示しました。「30分以上の運動習慣なし」、「1時間以上歩行又は身体活動実施なし」と回答した人の割合は、栃木県と比較して高くなっており、運動習慣については悪い傾向にあります。また、「何でも噛んで食べることができる」と回答した人の割合は、栃木県と比較して低くなっており、歯科・口腔衛生の改善について、対策が必要と考えられます。

